



NPO法人 災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

**2025 年度**

---

**方針・決議書**

2025 年 6 月 14 日  
乗鞍青少年交流の家

NPO 法人  
**災害救助犬ネットワーク**

---



# 第1号承認 ‘24年度 事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで  
特定非営利活動法人災害救助犬ネットワーク

## 1、事業の成果

- (1)DRDNの方針を明確に示し、その目的としている人命救助活動への理解者が定着しつつある。
- (2)救助隊の賛同者が増え日本のサーチ&レスキューに救助犬活用の流れができてきている。

## 2、事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	延べ 従事者 数	受益 対象	労務評価収益額 補助費実支出額 (円)
① 行方不明者捜索				名	注1	¥0
②救助活動への参加	合同訓練	6/27	福島県	6名		¥44,860
	岩手県防災訓練(事前)	9/6	岩手県	2名		¥90,420
	岩手県防災訓練	11/10	岩手県	6名		¥3,820
	群馬県明和町防災訓練	9/29	群馬県	3名		¥15,340
	福島県防災訓練	10/20	福島県	1名		¥31,880
	群馬県防災訓練	10/26	群馬県	10名		¥44,360
	和歌山消防訓練	12/5	和歌山県	6名		¥11,400
② 飼育訓練指導	REDOGトレーニング	11/16~18	群馬県	18名		¥49,800
	実働訓練会	8/10~12	長野県	12名		¥3,300
	定期訓練会(春季)	6/1~6/2	群馬県	13名		¥2,000
	定期訓練会(夏季)	9/14~15	新潟県	9名		¥46,520
	定期訓練会(冬季)	2/1~2	埼玉県	12名		¥212,960
	自主訓練会	4/21・6/30・9/23・10/5・1/29・3/8		6名		¥39,220
④認定審査	認定審査会	4/6	岐阜県			¥29,980
	認定審査会	12/14	群馬県			¥60,060
⑤ 調査研究						¥176,320
⑥社会的認知活動	沼田市新聞取材	7/20	群馬県	5名		¥0
	陸前高田市消防防災フェス	9/22	陸前高田市	5名		¥2,370
	盛岡動物愛護フェス	9/23	盛岡市	5名		¥31,890
	大垣消防セミナー	10/16	岐阜県	1名		¥2,300
	三井化学市原工場(秋祭り)	10/20	千葉県	2名		¥35,100
						¥15,620
						¥73,860
						¥0(単独会計)
						¥0
						¥0(単独会計)
						¥0
						¥25,440
						¥65,360
						¥43,440
						¥47,680
						¥32,880
						¥9,440
						¥600
						¥69,200
						¥7,460
						¥13,620



NPO法人 災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

	法政大学セミナー	10/25	千葉県	3名	¥9,880 ¥4,360
	岩手県立図書館 救助犬セミナー	11/2	岩手県	5名	¥17,980 ¥9,460
	古河市よかんべまつり	11/3	茨城県	4名	¥29,960 ¥51,800
	盛岡ペットワールド 特別授業	12/2	盛岡市	3名	¥6,460 ¥5,380
	和歌山消防セミナー	11/20	和歌山市	4名	¥12,050 ¥62,850
	いわきセミナー&訓練	11/24	いわき市	8名	¥65,340 ¥161,940
⑦その他の活動	訓練施設整備工事	5/18	群馬県	4名	¥35,360 ¥77,600
	京都府協定先会議	4/24	京都市	1名	¥2,240 ¥2,000
	群馬県防災訓練会議	7/30・9/26	群馬県	2名	¥7,220 ¥16,340
	合同訓練会議	6/20・7/30	福島県	2名	¥2,560 ¥2,000
	渋川消防表敬訪問	11/15	渋川市	3名	¥8,930 ¥67,210
	訓練施設打合せ	4/1	東京都	3名	¥5,860 ¥57,420
	総会	6/1	群馬県	6名	¥16,040 ¥164,880
	面談(総務省行政評 価局)	3/26	東京都	3名	¥8,740 ¥37,780
	廃村調査	3/27		2名	¥4,130 ¥33,610
	和歌山市協定式	8/21	和歌山市	5名	¥12,680 ¥100,960
	訓練施設視察	12/10・12/13	三重県・静岡	2名	¥4,390 ¥33,830
	岩手県防災訓練会議	6/30・7/30・10/9	岩手県	3名	¥8,480 ¥12,760

(注1) 受益対象者: 当該の災害による要救助者及び周辺者

(注2) 受益対象者: 将来発生する事案での要救助者及び周辺者、人数は状況による。

(2) その他の収益事業 該当なし

以上



NPO法人 災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

## 第2号承認 '24年度 貸借対照表

2024年4月1日から2025年3月31日まで  
特定非営利活動法人災害救助犬ネットワーク

科 目	金 額 (単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	578,493		
普通預金	13,659,132		
未収金	5,000		
有価証券	20,000		
短期貸付金	64,900		
仮払金	1,273,589		
流動資産合計		15,601,114	
2 固定資産			
車両	1		
備品	193,118		
土地建物	175,139		
固定資産合計		368,258	
資産合計			15,969,372
II 負債の部			
1 流動負債			
短期借入金	0		
未払金	30,508		
預り金	0		
前受金(会費)	121,000		
前受金(認定 R)	3,000		
前受金(認定 捜索)	7,000		
流動負債合計		161,508	
2 固定負債			
長期借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			161,508
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		19,531,927	
当期正味財産増加額(減少額)		△3,724,063	
正味財産合計			15,807,864
負債及び正味財産合計			15,969,372

pg. 3

以上



NPO法人災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

## 第2号承認 '24年度 活動計算書

2024年4月1日～2025年3月31日まで  
特定非営利活動法人災害救助犬ネットワーク

科目	金額 (単位:円)
<b>【経常収益】</b>	
<b>【受取会費】</b>	
正会員受取会費	175,000
家族会員受取会費	6,000
賛助会員受取会費	10,000
<b>【受取寄付金】</b>	
受取寄付金	862,724
募金収入	112,150
ボランティア受入評価益	775,710
<b>【事業収益】</b>	
サポーター試験	13,000
R (広報) 認定出陳料	10,000
R (広報) 登録料	2,000
認定出陳料 (検索)	45,000
認定登録料 (検索)	10,000
適正試験収入	18,000
実動訓練会	48,000
春季訓練会収入	80,880
夏季訓練会収入	31,220
秋季訓練会収入	84,755
冬季訓練会収入	6,000
<b>【その他収益】</b>	
受取 利息	6,054
雑収入 (ユニホームその他)	100,930
経常収益 計	2,397,423
<b>【経常費用】</b>	
<b>【事業費】</b>	
(人件費)	
ボランティア評価費用	775,710
人件費計	775,710
(その他経費)	
出動費 (事業)	285,538
訓練部費 (事業)	586,824
社会的認知広報 (事業)	8,267
活動交通費補助 (事業)	2,355,330
認定審査会費	197,220
定期訓練会費	134,150
適性試験審査費用	18,000
サポーター試験	50,000
レドックセミナー	573,181



NPO法人災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

その他経費計	4,208,510	
事業費計		4,984,220
【管理費】		
(人件費)		
人件費計	0	
(その他経費)		
印刷製本費	6,250	
会議費	1,820	
旅費交通費	3,200	
車両費	219,430	
通信運搬費	114,956	
消耗品費	14,678	
事務所費	192,200	
広告宣伝費	88,921	
減価償却費	207,423	
保険料	19,500	
租税公課	200	
支払手数料	44,437	
雑費	224,251	
その他経費計	1,137,266	
管理費計		1,137,266
経常費用計		6,121,486
当期経常増減額		△ 3,724,063
【経常外収益】		
経常外収益計		0
【経常外費用】		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		△ 3,724,063
経理区分振替額		0
当期正味財産増減額		△ 3,724,063
前期繰越正味財産額		19,531,927
次期繰越正味財産額		15,807,864

以上



NPO法人災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

## 第2号承認 '24年度 財産目録

2024年3月31日現在  
特定非営利活動法人災害救助犬ネットワーク

科目	金額(単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金 現金手許有高	578,493		
PayPay 銀行	12,038,864		
郵貯銀行 振替口座	347,230		
郵貯銀行 総合口座	1,273,038	14,237,625	
未収金			
未収金	5,000		
仮払金	1,273,589		
短期貸付金	64,900		
有価証券	20,000	1,363,489	
流動資産合計			15,601,114
2 固定資産			
建物	175,139		
車両運搬具	1		
什器・備品	193,118	368,258	
資産合計			15,969,372
II 負債の部			
1 流動負債			
未払い金	30,508		
前受金(会費)	121,000		
前受金(R 認定登録費)	3,000		
前受金(搜索認定登録費)	7,000		
預かり金	0		
		161,508	
2 固定負債			
負債合計		0	161,508
正味財産			15,807,864

pg. 6

なお、その他の事業は行わないので、資産・負債ともゼロである。

代表理事 津田 光



NPO法人災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

## 第2号承認 '24年度 会計監査報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで  
特定非営利活動法人災害救助犬ネットワーク

2024年度貸借対照表、活動計算書、損益計算書、財産目録について、2025年5月31日までに、会計監査を実施したところ、出納帳簿、領収書類、銀行通帳等すべて適正に処理がされていることを認めます。

2025年5月31日

特定非営利活動法人  
災害救助犬ネットワーク  
理事長 津田 光 殿

pg. 7

特定非営利活動法人  
災害救助犬ネットワーク  
監事 野添有美  
(原本署名押印)

以上



NPO法人災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

## ‘25年度 役員

2025年7月1日から2026年6月30日まで  
特定非営利活動法人災害救助犬ネットワーク

役員を次の通り提案します。(任期は2025年6月30日まで)  
理事長・副理事長については、総会での役員選任後、理事による互選で決定します。  
このメンバーにおける確認、方針は次ページにあります。

提案理由	任期満了
選任日	2025年7月1日

選任後の体制	役職	氏名	住所または居所	報酬
選任後の体制	理事	津田 光	京都市上京区富小路町 457 番地	無
	同	四戸 正子	岩手県盛岡市北松園4丁目36番地1	無
	同	古川 祥子	横浜市都筑区東山田 2 丁目 12 番地 10	無
	同	岡田 匡博	兵庫県三木市緑が丘町東1丁目 22 番地 15	無
	同	三上 恵子	青森県青森市月見野町 1-33-18	無
	監事	富澤 祥子	東京都新宿区四谷 4 丁目 22 番地	無

pg. 8

※総会において理事に選任された後、理事長、副理事長、下記役員、事務局等を選任予定です。

選任予定	顧問	堀内 壽子	埼玉
	顧問	青山 省三	群馬
	救助犬統括部長	村上 信尊	広島
	認定審査部長	三谷 郁子	神奈川
	訓練育成部長	岡田 匡博	兵庫
	事務局長	足立 真希	富山

- ※訓練育成部門、事務局は理事が選任されて後、選任予定です。
- ※救助犬統括部: 認定と訓練はリンクした関係にあり、部門間の調整、双方の管理を行う。
- ※認定審査部: 認定審査、制度、規定などを企画、管理を行う。  
認定制度は理事会承認事項
- ※訓練育成部: 救助犬の基礎的な育成、訓練の企画、管理を行う。  
消防等の連携訓練は出動部で行う。

以上



NPO法人災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

# ‘25年度 活動方針

2025年7月1日から2026年6月30日まで  
特定非営利活動法人災害救助犬ネットワーク

## 1、救助犬活動を行う原点

自らがNPOに支援、協力、寄付する場合、その組織が社会貢献となっているかは必ずチェックするはずである。私たちは評価される立場でもある。

過去、業界での狭い議論の中で過ごしてきたことにより、認知は進んでいるようで人命救助ができる組織体となっているかという本質的な部分は見過ごされているように映る。人命救助の活動としてみれば、災害イコール救助犬を活用するという認識に至っていない。イベント的な所での認知では目的は達成されないし進化しようという意識からは遠退いているのではないか。そのプロセスであるという指摘には既に30年経過しても創立時のままのようであり、実質は進化していないことになる。この点は活動を考える軸が実際にイメージしてこなかったことに他ならない。現場に出かけることと人命救助ができることは別である。そのための準備、訓練をせずに現場に出かけることで人命救助をアピールすることは改めなければならない。社会の認識を変革しなければならない。

DRDNの目的を常に確認して、あらゆる活動の軸を救助犬による人命救助の目的から考え、社会の正しい評価が得られるかで判断、行動していく。

pg. 9

## 2、社会からの支持が得られる組織を目指す

人の訓練、犬の訓練を行う。広報を行う。行政、救助隊からの信頼を得る、装備を充実させる等、言葉だけではなく、そのことを実行できる仕組みを整えなければならない。

対外的な評価は様々であるが、私たちは謙虚に失敗事例に学び、失敗を繰り返さないことである。そして考えるべきは犬の訓練だけをしていればという、自惚れた自画自賛は災害現場では通じないことを教訓として肝に銘じるべきである。救助犬を生かすために必要なことは何かを考え行動を試みたい。

そのことに気づき始めている行政、救助隊に抗弁するには実績が必要である。その一助となるのがレドッグとの協定でもあり実績あるレドッグの関係を糧にして社会からの支持が得られる組織になることが、いまやるべき組織進化への足がかりにしたい。その評価の可否は社会に正しくタイムリーに伝え、支援や寄付というフィードバックされてくるものを捉えている。

そのためには、数だけを優先することなく、入会時に意思確認を行うこと、入会後も実働するために参加しているということを認識できる制度に改善するなど常に意思共有をしながら運営していく。

また、DRDNの活動をより幅広く社会に周知するため、広報を多様化する。具体的には、SNSを活用し、訓練場の工事などの作業や要救助者役のヘルパーなどをお願いするボランティアを積極的に募集し、活動に参加してもらい活動を知ってもらう。そして寄付付きのグッズの販売を行い、より広く広報を行うと同時に災害救助犬を知ってもらうきっかけ、さらには活動の支援につなげたい。

## 3、社会からの評価は行動で示す

レドッグとの協定は形式的ではなく明らかに実務的な内容を見据えた内容になっている。一方自治体との協定は形式的と言わざるを得ない。そのことをもって評価されていると勘違いしてはならない。

マスコミからの取材を受けても、次につなげなければ意味がない。パフォーマンスを見てもらう団体ではなく、役に立つ結果を示していかなければ真の評価は得られない。また一過性ではなく継続的、発展性ある協力を得るには掲げている理念、方針を具体的に行動で示すことしかない。

言葉だけの人命救助はすぐに見抜かれ見放されることは歴史が証明している。パフォーマンスで喝采を受ける時期は過ぎている。民間だからできること、救助犬だからできることは必ずある。ボランティアで



あってもプロフェッショナルとならなければ評価は得られない。

実働するために、できるために必要な枠組み作り(群馬県モデル→渋消モデル)を絵空事にはしないためには行動、実績を残して検証、改善で見えるようにしなければならない。方針は理念に留まらず行動指針でもある。終りのない犬の訓練でもあるように、人も常に進化することを考え活動していく。

#### 4. サーチ&レスキューのスタンダードモデル構築

人命救助は、行方不明者がいる現場において捜索、救出、救命とつながってこそ叶うものであるが、日本には実践的に整っているわけではない。特にレスキューを担う消防、警察、自衛隊は公務員でもあり独自に動きにくい組織であるが故に民間との連携にはエネルギーが必要であろうし、硬直化した行政に官民連携の旗振りを期待するのは現実的ではない。我々は歴史的に救助犬(団体)と呼ばれ、サーチ&レスキューという言葉を当たり前のように使うが、実際に行えるのは捜索活動のみである。救助隊との連携、DMAT等の救命チームと連携せずに人命救助は絵空事である。

今できることは救助犬を使うと明言している救助隊とのサーチ&レスキュースタンダードモデル構築に集中的に資源を注ぎ、いち早く現場で連携活動できるようにすること、そしてそのモデルを社会に示すことが現実的な行動であると考えている。その可能性があるのは群馬県と福島県の消防部隊であり、モデルを示してスタンダードになるようにする。特に群馬県においてはさらに連携の県隊枠組みから絞り込み、臨機応変に対応できる実働チーム(仮称:渋消モデル)の編成に向けて考察していく。

それを現実的に近づけるためには、机上ではなく平時の訓練が不可欠であり、また、そうしたモデルに興味を示す部隊との継続的な訓練をいつでも行える施設、場所が必要となる。昨年より群馬県にその場所を確保し機能していることを拡充していく。

いつ起こるかかわからない災害に対応できなければ、想定外の言い訳ばかりで存在価値を問われる。自己満足な「救助犬ごっこ」の集まりと揶揄されないためには常に行動で示していく。

この方針を実現するためには、救助隊との連携訓練をすることだけに留まらず、育成、訓練、認定のプロセスを目的に向けて一連に進化させていく必要があり、訓練、認定制度も自己規律をもって実践的に進化させていくことを怠ってはならず、訓練育成→認定審査→実働訓練→連携訓練は、すべて実働に向けて組み立てていく。

今年度も、定期訓練会は年に4回開催し、加えて各メンバーの自主訓練会の開催を促進していきたい。訓練会の内容は新認定会制度に対応できるよう取り組んでいく。また、認定審査会は年に2回行っているが、今年度から認定審査を受験するには出陣資格審査を通過するように改正された。平時の訓練を通して、捜索犬としての基本作業資質や現場で想定される場面での練度を確認し、災害時、いつどんな時もすぐ対応できる犬を育てていく。

DRDNの災害救助犬活動の基盤である犬、ハンドラーのスキルは国際的にどのようなレベルなのか。人命救助においてどれだけ対応できるのか、貢献できるのか。救えるはずの命を救うために、常に考えて行かなければならないテーマである。

他方、日本の災害救助犬の現況を振り返ったとき、活動できる環境が整っていると は言い難く、また社会、行政、救助隊への理解、信頼も十分とは云えない。

災害救助犬が社会に信頼されるためには可視化して判断してもらう必要がある。その一つとして捜索作業ができる能力があること。当然のこととは云え、プライドをもって社会に送り出す犬と人の認定制度は重要な評価基準でもある。

そうした背景も踏まえ、世界規範ともいえる REDOG MRT(Mission Readiness Test) に取り組んで行くことにした。導入には協定関係にある先進国スイス REDOG のサポートを受けつつ、スペシャリストの育成、訓練、審査施設の拡充など時間がかかることでもあるが、今年度から DRDN でも調査研究部門で MRT プロジェクトを発足させて基盤整備に着手する。(※プロジェクトチームメンバーは総会後に発表)

これらの取り組みに協同できる組織、個人とは平時、非常時を問わず連携することは当然ではあるが、言葉や形式的な対応ではなく、具体的な対応で判断、対処していきたい。



## 5、実践的なメンバーと犬の育成

沼田市根利小学校舎内を改造して屋内捜索の訓練ができるようになった。定期的により精緻に捜索、告知ができるように整えていく。そして数か質か？この議論の前に客観的な現状分析が必要である。犬の育成を続けていくことは当然であるが、出動準備、作業指示をするのは犬ではなく人であるから、実践的な育成には犬よりも人に負うところが大きい。犬ありきの発想ではなく、人ありきで活動、訓練を考えていくには活動しやすい環境整備も重要である。活動するか否かは人(ハンドラー・サポーター)次第なので、犬の訓練だけに偏らず、現場出動視点からの合理的発想が重要である。

しかし、日本に人命救助に特化した部隊として即応できる救助犬チームは事例から見て僅かと捉え、「愛犬を救助犬に」と情緒的に訴えてきたことは30年間で実践的な救助犬チーム形成に結実しているとは思えず、犬からの延長線上で組み立てていくことは良策とは思えない。私たちが人命救助に必要な犬を育成し、出動に備えた環境作りをすることに共感して、目的意識をもって活動に参画して協働できる人と方向性を模索したい。具体策はサポーター試験の実施と、啓蒙やセミナーも含む実働想定訓練を年2回開催し、認定犬に限らずサポーターの参加もしやすい環境を整備していく。実働訓練会では回数を重ねる中で参加人数が安定し、より実践的な訓練ができるようになってきたので、今後は安全管理、捜索訓練、野営等の訓練に加えて、参加者が実際の現場を意識した緊張感のある実働訓練会を目指す。今年度は、長野県大町と滋賀県の廃村を利用して訓練を開催予定。

また、犬に合った形での告知方法の模索として、調査研究部門でブリングセルの調査研究を進めてきた。5頭の犬でブリングセルの訓練検証を行い、結果訓練としてはブリングセルを採用しないこととする。

pg. 11

## 6、財政の有効活用と活動への投資

昨年度と同じ方針にはなるが「ボランティアだがプロフェッショナル」な捜索チームを目指し、犬・人のレベルアップ、実働訓練、訓練育成の為に造作工事など会員の負担減少も含め可能な限り投資を続けていきたい。社会からの支援は、目的に直接つながる各種行事での活動補助を充実させる。実行には収入の部分で継続的なものが必要になるが、諦めず前進していく姿を見せていくことが、社会の支援に結び付くと思うため、新たに募金・寄付を集めるツールの検討も含め、継続して行っていく。

以上



NPO法人 災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

# ‘25年度 事業計画

2025年7月1日から2026年6月30日まで  
特定非営利活動法人災害救助犬ネットワーク

## 1、事業実施の方針

- (1) 災害救助犬を使う捜索隊としての基本的能力の整備、強化
- (2) 広域的な出動体制基盤作り
- (3) NPO 法人としての組織体制基盤の確立
- (4) 各地行政と協同で災害救助体制の構築の核となる特化モデルの形成
- (5) 他の災害救助犬団体との交流・協力・連携関係の推進
- (6) 社会的な認知の向上

## 2、事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	行方不明者救助活動に関する事業
具体的な事業内容	災害による家屋倒壊・土砂崩れ等、災害による・生き埋め捜索及び山菜取り・ハイキングによる道迷い等、平時の行方不明捜索及び訓練。
実施予定日時	事案が発生し、捜索要請があった時。年2回の実働訓練会。消防・警察との連携訓練会。
実施予定場所	事案発生場所、国内各地。
従事者予定人数	統括者・災害救助犬及び指導手、人数は事案状況によって異なる
受益対象者の範囲	遭難者・被災者等要救助者及び家族等周辺の者
予定人数	事案の状況によって異なる
予算・事業費金額	1,000,000 円

pg. 12

事業名	各種団体等が行う救助訓練への参加事業
具体的な事業内容	行政機関・山岳団体等の行う防災・救助訓練への参加。
実施予定日時	随時
実施予定場所	国内各所
従事者予定人数	都度、会員数名および災害救助犬数頭
受益対象者の範囲	将来発生する事案での要救助者及び周辺者
予定人数	事案の状況によって異なる
予算・事業費金額	300,000 円

事業名	災害救助犬の飼育・訓練・指導に関する事業
具体的な事業内容	a.実働をめざす会員の平時の飼育・訓練 b.地域グループで主として週末に捜索訓練 c.訓練会で訓練についての指導、チーム捜索及び、知識等の講習。
実施予定日時	毎日/毎週/春、夏、秋、冬季の定期訓練会。
実施予定場所	国内各地
従事者予定人数	会員及び災害救助犬従事者並びに担当犬
受益対象者の範囲	将来発生する事案での要救助者及び周辺者
予定人数	事案によって異なる
予算・事業費金額	900,000 円



事業名	災害救助犬の認定審査に関する事業
具体的な事業内容	災害救助犬及び指導手の能力を確認と能力アップを図り、災害現場での実践で捜索活動の効果を上げるために認定審査会を行う。
実施予定日時	年2回(広報2回、捜索2回)
実施予定場所	国内各所
従事者予定人数	会員及び災害救助犬従事者並びに担当犬
受益対象者の範囲	将来発生する事案での要救助者及び周辺者
予定人数	事案の状況によって異なる
予算・事業費金額	200,000 円

事業名	災害救助犬に係る調査研究に関する事業
具体的な事業内容	a. 災害救助犬が要救助者を発見する能力向上。 b. 災害あるいは出動時の連絡通信技術の向上。 c. チーム編成による連携捜索技術の向上。 d. 被災地捜索救助経験者講演 e. 能力向上のための認定会への出陳に向けた適正検定の検討。
実施予定日時	随時
実施予定場所	国内各地
従事者予定人数	担当者数名
受益対象者の範囲	将来発生する事案での要救助者及び周辺者
予定人数	事案によって異なる
予算・事業費金額	1,000,000 円

事業名	災害救助犬活用の体制整備及び、社会的認知の向上に関する事業
具体的な事業内容	a. 災害出動に関して啓発・協定等、行政対応による認知向上。 b. 一般・学校・イベント等でのデモ・啓発。
実施予定日時	随時
実施予定場所	国内各地
従事者予定人数	会員数名及び災害救助犬数頭
受益対象者の範囲	将来発生する事案での要救助者及び周辺者
予定人数	事案によって異なる
予算・事業費金額	500,000 円

事業名	その他、目的達成のために必要な事業
具体的な事業内容	上記の6つの事業推進のために付随する事業。組織間連携等
実施予定日時	随時
実施予定場所	国内各地
従事者予定人数	会員数名及び災害救助犬数頭
受益対象者の範囲	将来発生する事案での要救助者及び周辺者
予定人数	事案によって異なる
予算・事業費金額	200,000 円

※上記の他の事業、又は内容、詳細については総会で決定する。

以上



NPO法人 災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

## ‘25年度活動予算

2025年4月1日から2026年3月31日まで  
特定非営利活動法人災害救助犬ネットワーク

科 目	金 額 (単位:円)		
I 経常収入の部			
1 入会金・会費収入			
入会金収入	25,000		
会費収入	200,000	225,000	
2 事業収入			
飼育・訓練・指導 事業収入	100,000		
認定審査 事業収入	100,000	200,000	
3 寄付・募金			
寄付収入	1,500,000		
募金収入	300,000	1,800,000	
4 雑収入			
雑収入	300,000	300,000	
経常収入合計			2,525,000
II 経常支出の部			
1 事業費			
① 行方不明者救助活動 事業費	1,000,000		
② 救助訓練参加 事業費	300,000		
③ 飼育・訓練・指導 事業費	900,000		
④ 認定審査 事業費	200,000		
⑤ 調査研究 事業費	1,000,000		
⑥ 社会的認知の向上 事業費	500,000		
⑦ その他 事業費(連携、渉外)	200,000		
		4,100,000	
2 管理費			
事務所費	200,000		
消耗品費	100,000		
事務用品費	50,000		
通信費	150,000		
雑費	200,000		
旅費交通費	100,000		
印刷費	50,000		
広報費	50,000		
支払手数料	50,000		
会議費	50,000		
接待交際費	100,000		
租税公課費	5,000		
ボランティア保険	30,000		
車両費	150,000		
		1,285,000	
経常支出合計			5,385,000
経常収支差額			△2,860,000
III その他資金支出の部			
予備費(災害対応等)		500,000	
その他資金支出合計			500,000
当期収支差額			



NPO法人 災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

			△3,360,000
前期繰越収支差額			15,807,864
次期繰越収支差額			12,447,864

以上